

表 5 - 5 (1) ある環境特性で行われる環境要素に関する調査・予測の際の主な留意点
(磯場・藻場が存在する海域)

環境特性	影響要因 環境要素		工事の実施	
	項目		水環境	大気環境
			水質	騒音・振動
			水中照度	濁り・堆積物
○磯場、藻場が存在する ○海水域である ○存在する類型：岩礁域、海藻藻場	想定される 主な影響		・濁りの発生に伴う水中照度の低下、懸濁物の草上への堆積 → <u>海藻類の生育阻害と現存量の低下</u> → <u>藻場の生態系の機能(産卵場、育成場等)の低下</u> → <u>水質の変化(プランクトン生産の変化)</u>	
	調	主な把握事項	・藻場の分布状況 ・藻場に蜻蛉(依存)する生物の生育・生息状況 ・対象海域の濁りの分布、変動状況 ・工事による濁りの発生状況、拡散状況 ・ <u>水質(一次生産)の状況</u>	
		留意点等	・バックランドの濁りの状況により、影響の度合いは異なる。 ・工事により発生する濁りの発生位置、発生時期等により影響の度合いが異なる。 ・海底工事等を行う際、騒音・振動の発生状況によっては、魚類 への影響を考慮する場合がある。	

注) 1. 気象(日照、降水量)については、人為的な行為でないことから除外している。

1. 「環境への負荷」は、海域の生態系についてほとんど影響がないと考えられることから、この例では除外している。

表 5 - 5 (2) ある環境特性で行われる環境要素に関する調査・予測の際の主な留意点
(磯場・藻場が存在する海域)

環境特性		影響要因 環境要素		土地又は工作物の存在及び供用									
		項目		水環境							その他 の環境	大気 環境	
				水質					その他		地形及び地質	騒音・振動	
				水質	水中 照度	濁り・堆積物	水温	塩分	波浪	流動	干出時間	地形・基質	騒音・振動
○ 磯場、藻場が存在する ○ 海水域である ○ 存在する類型 ：岩礁域、海藻藻場		想定される 主な影響		・ 流動の変化、波浪の変化、濁りの変化に伴う水中照度の変化 → 海藻類の生育環境変化 → 生態系の機能(産卵場、育成場等)の変化 ・ 水温・塩分・水質の変化 → 海藻類の生育環境変化及び現存量の変化 → 生態系の機能(産卵場、育成場等)の変化 ・ 生息基盤の変化に伴う波浪の変化、干出時間の変化 → 生物生息空間の変化 → 生態系の機能(産卵場、育成場等)の変化 ・ 工作物等の存在による生物生息空間の減少 → 海藻類等の現存量の減少 → 生態系の機能(産卵場、育成場等)の低下									
		調査・予測に関する留意点	主な把握事項	・ 対象海域の流動、波浪、水温、塩分、水質、漂砂、流入負荷量の変化状況及び施設からの排水による負荷量の状況 ・ 生物の生息状況及び生息基盤等の生息環境の状況 ・ 生態系の構造と機能の特性 ・ 埋立等による基質等の改変区域									
		留意点等	・ この環境特性の生態系の機能の特徴としては、「場(産卵場、育成場等)」と「環境形成・維持(酸素の供給等)」、「物質循環」、「緩衝(汚濁物質の補足等)」であると考えられる。これらの機能に関連し、評価が可能な生物種(群集)の選定が重要となる。 ・ 対象海域の汚濁状況、汚濁機能により影響の度合いは異なる。 ・ 対象海域周辺に砂泥底域が存在する時、波浪による漂砂の変化について考慮する場合がある。ただし、漂砂の変化のタイムスケールは、一般に流動、水質等に比べとはるかに長いことも考慮する。 ・ 供用時の騒音・振動の発生状況によっては、魚類への影響を考慮する場合がある。 ・ 温排水の場合は、対象海域の水温の分布・変動特性、取排水の位置により影響の範囲が異なる。また、水温の上昇及び取水の連行による生物の高温障害、忌避を考慮する。 ・ 短期的及び中長期的に影響する項目及び範囲を考慮する。										

注) 1 . 気象(日照、降水量)については、人為的な行為でないことから除外している。
2 . 「環境への負荷」は、海域の生態系についてほとんど影響がないと考えられることから、この例では除外している。